交通政策におけるビジョン設定に関する事例研究

秋田大学　学生員　○佐々木　善和
秋田大学　正会員　　木村　一裕

１．はじめに

成熟型社会である現代では，市民の社会活動ニーズを踏まえた交通サービス水準を定め，都市交通の将来像を示す交通ビジョンを策定する必要性が生じている。行政の取組全般に対する国民の関心も高まっており，都市交通分野においても成果と効率性，わかりやすさを重視した行政マネジメントを実施することが重要となっている。しかし，策定された計画を見ると，計画の目標や方針などの用語の意味がそれぞれの計画において異なっていたり，内容に一貫性が無く，市民に計画の論旨が伝わらないケースも少なくない。

そこで，本研究では既に策定されている交通ビジョンの事例を 5 つの視点で分析し，特徴があってわかりやすい交通ビジョンとはどのようなものかを明らかにすることを目的とする。

２．分析方法

(1)研究の対象

本研究では, 研究の対象を県庁所在地である 14 の市で策定された総合交通計画とし，ビジョンの構成を文献[1)]を参考にして図 1 のように定義した。

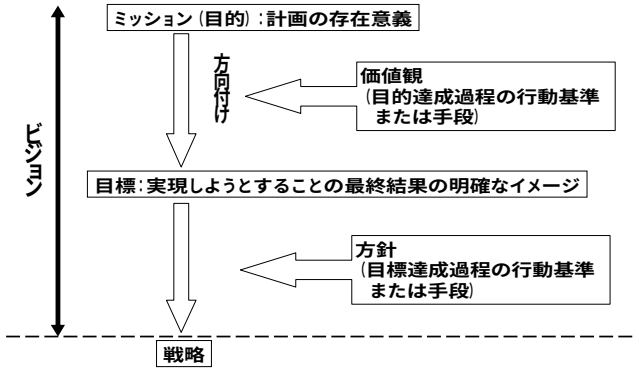

図１　ビジョンの構成図

(2)分析の視点

分析の視点として，(1)用語の適切さ，(2)ミッションの高次性，(3)ミッション，価値観，目標における網羅性と独自性，(4)関連性，(5)全体的一貫性について分析した。

３．分析結果

(1)用語の適切さ

表 1 に各計画に用いられた用語を示す。

ミッションでは，ミッションを「はじめに」とするものや「基本理念」とするものなど 4 つの計画で異なった用語が使われていた。価値観では,「全体目標」,「課題」とするものや価値観に相当するものが無いものが 4 つの計画であった。目標では「基本方針」,「基本方向」,「基本認識」,「方向性」,「コンセプト」,「施策」,「方針」,「基本理念」,「施策の体系」とするものが，11 の計画であった。方針に関しては,「個別目標」,「行動計画」,「施策の体系」,「プロジェクト」とするものや方針に相当するものが無いものが，6 つの計画であった。結果的に，目標を方針と捉えているケースが最も多かった。目標と方針の関係において「方針は目標を達成するための手段」という基本的な概念を明確にし，共通認識とすることが必要であると考える。

表１　用語分析結果

名称	ミッション（目的）	価値観	目標	方針
盛岡市総合交通計画	目的	基本的な考え方	基本方針	基本方針
山形市交通マスタープラン	目的	全体目標	個別目標	個別目標
千葉市総合交通ビジョン	目的	基本認識	基本方向	施策の方向
にいがた交通戦略プラン	目的	基本認識	基本方針	方向性
富山市公共交通活性化計画	目的	理念	基本方針	方向性
岐阜市総合交通政策	はじめに		基本認識	基本方針
新金沢総合交通計画	基本理念	基本的な考え方	目標	方針
福井市都市交通戦略	目的	基本認識	方向性	方向性
広島市新たな交通ビジョン	目的	政策理念	コンセプト	方向性
「歩くまち・京都」交通まちづくりプラン	はじめに	課題	施策	
神戸市営交通ステップアッププラン	目的		方針	行動計画
岡山市交通基本計画	目的	計画の視点	基本理念	
山口市市民交通計画	はじめに	基本認識	施策の体系	施策の体系
熊本都市圏都市交通アクションプログラム	目的	視点	施策目標	プロジェクト

(2)ミッションの高次性

高次性とは，着目点を全体を見渡せるような高い位置に設定しているか，総合的に見れているかということである。山口市では，社会情勢を捉えながら総合的な視点からの取組み行うということのほかに,「自らの生活利便を追及するだけでなく」という，生活姿勢まで視野に入れたミッションとなっている。このように，意識啓発にもつながるような設定が高次元的といえるのではないかと考えた。

(3)ミッション，価値観，目標における網羅性と独自性

表 2 には, 価値観における網羅性, 独自性を表 3 では, 目標における網羅性,独自性を示した。

全体として，価値観，目標ともに，網羅性としてあげ

られたものは，現在の社会情勢を反映したものとなった。また，独自性は，それぞれの自治体側の考え方であり，これが単なるキーワードなのか，計画全体へと浸透しているのか，今後確かめる必要がある。

表 2　価値観における網羅性,独自性

	価値観	数
網羅性	交通弱者への配慮（ユニバーサルデザイン）	8
	環境への配慮（自動車利用抑制、公共交通利用活性）	7
	まちづくりとの連携（都市の活性化）	5
	コンパクトな土地利用への誘導	4
	関係者との連携と役割分担の明確化	3
独自性	交通ルールの遵守とマナー向上	1
	既存ストックの有効利用	1
	安全・安心の確保（防災）	1

表 3　目標における網羅性,独自性

	目標	数
網羅性	まちの魅力を支える交通環境	9
	公共交通の利便性向上	8
	安全安心なユニバーサルデザインな交通環境	7
	環境負荷の小さな持続可能な都市を形成する交通体系	5
	歩いて楽しい交通環境	4
	交流・連携を支える交通環境	3
	スムーズな自動車利用	2
独自性	ルールを守り互いを思いやる交通	1
	都市経営の効率化に貢献	1
	住環境の改善・向上	1

(4)関連性，(5)全体的一貫性

関連性と全体的一貫性について,「ミッションと価値観の関連性」,「ミッションと目的の関連性」,「目標と方針の関連性」の 3 つの分析をした。表 4 は盛岡市と富山市のミッションから方針を示している。

表 4　盛岡市、富山市の事例

市	ミッション	価値観	目標	方針
盛岡市総合交通計画	・誰もがスムーズに移動できる交通環境 ・各交通手段が密接に結びついた交通 ・「ひと・まち・環境」にやさしい総合交通計画	・安心・安全な交通(天候・季節・防災) ・環境への配慮 ・交通弱者への配慮 ・まちづくりとの連携（中心市街地城下町保全） ・交通ルールの遵守とマナー向上（各交通手段連携）	四季を通じて安全で安心なユニバーサルデザインの交通環境づくり	・安全な歩行者空間、自転車空間の確保による、身近な移動環境の向上 ・来訪者が移動しやすい環境づくり ・冬期でも安全通行可能な交通の確保
			各交通手段連携、自動車依存しない交通環境づくり	・場所や目的に応じた様々な交通手段の特徴を活かした交通体系の確立 ・交通手段を組み合わせた活用により、自動車利用を減らす環境づくり ・交通手段の組み合わせ利用が便利になるような施設整備、結節点整備
			交流・連携を支える交通環境づくり	・既存施設を活用し、選択と集中の整備 ・盛岡の歴史や自然を活かしたまちづくりを考えた施設整備 ・道路空間の再配分などにより、自転車でも動きやすいまちづくり
			みんながルールを守り、互いを思いやる交通環境づくり	・各交通手段のルールを遵守によるマナーの向上 ・互いの交通手段の特徴を理解し譲り合う
富山市公共交通活性化計画	公共交通の活性化、「コンパクトなまちづくり」実現	公共交通を軸とした拠点集中型コンパクトなまちづくり（クラスター型）	（鉄軌道活性化計画）	・ＬＲＴネットワークの形成 ・増便を核とした利便性向上 ・地域内鉄道としてのサービス強化 ・交通結節点の整備
			（幹線バス活性化計画）	・快適性・分かりやすさの向上 ・路線維持と拠点バス停の整備 ・路線全体のバリアフリー整備
			（生活交通サービス整備方針）	・公営コミュニティバスの効率的な運行 ・地域自主運行バスの導入支援 ・生活バス路線（民間赤字路線）の維持 ・ＮＰＯ等による福祉有償運送、過疎地有償運送サービスの活用
			（公共交通の利用促進）	・市民や企業との連携による利用促進 ・公共交通の利用啓発 ・公共交通機関相互の持続性の向上 ・公共交通の信頼性の向上

表 5，表 6 の 1)より「ミッションと価値観の関連性」，2）より「ミッションと目的の関連性」，3）「目標と方針の関連性」が明らかになり，盛岡市と富山市の例は全体一貫性があると考えられる。

表 5　盛岡市の関連性の分析結果

1) ミッションにあるキーワード「ひと・まち・環境」が価値観で網羅されている
2) 目標においてミッションにおけるキーワード「ひと・まち・環境」に関連した記述がされている
3) 各目標からそれぞれ方針が分岐されており、方針の内容も目標を補う表現となっている

表 6　富山市の関連性の分析結果

1) ミッション「公共交通活性化によるコンパクトなまちづくりの実現」を価値観「公共交通を軸とした拠点集中型（クラスター型）のコンパクトなまちづくりの実現」でいかに行うかを具体的に述べている。つまり「コンパクトなまちづくりの実現（ミッション）」は「公共交通を軸とした拠点集中型（クラスター型）（価値観）」で実現される。
2) 鉄軌道活性化計画等4つの目標は、すべてミッションで述べられている「公共交通活性化」に関することである
3) 目標の一つ「鉄軌道活性化計画」に着目すると、その方針の一つである「ＬＲＴネットワークの形成」は「目標である「鉄軌道活性化」を「ＬＲＴネットワークを形成」することで実現する」というように、目標の手段となりえている。他の3つの方針も同様に目標の手段と成りえていた。
他の3つの目標においても、それぞれの方針でＬＲＴの他、バリアフリー構想、コミュニティバス、市民との連携など新たな交通政策が取り入れられており、目標に対する方針の立て方も漏れが無かった

都市計画の目標として，コンパクトシティを掲げる都市は多いが，富山市のように，公共交通計画においてクラスター型など詳細な記述で拠点集中ということに触れ,ビジョンに設定していることは特徴的である。

盛岡市はミッションにおけるキーワード（ひと・まち・環境など）が各項目でも網羅されており，表現方法も簡潔なため，関連性がわかりやすく，論理的に展開されている。富山市は，ミッションにおけるキーワードが「コンパクトシティ」であり，価値観にはキーワードが含まれているが，目標，方針には含まれていない。一貫性を保ちわかりやすくするためには，盛岡市のように上位の概念であるミッションの段階でメインとなるいくつかのキーワードを設け，それを下位の概念（価値観、目標、方針）にも含めながら，段階的に具体化してブレークダウンしていくことが望ましいと考えられる。

４．まとめ

本研究では，以下のことが明らかになった。

(1)ビジョンを構成する項目において異なった用語の使用が見られた。

(2)価値観や方針に相当する記述が無いものがあった。

(3)2 つの事例では，関連性や一貫性が確認できた。

参考文献

1)Ken Blanchard，Jesse Stoner ：ザ・ビジョン，ダイヤモンド社，(2004)